

都市再生整備計画 事後評価シート

多摩センター駅周辺地区

令和4年2月

東京都多摩市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	東京都	市町村名	多摩市	地区名	多摩センター駅周辺地区	面積	63ha							
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	51.6	国費率	0.4							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名											
			地域生活基盤施設(情報板) 案内板・サイン 高質空間形成施設(緑化施設等) ストリートファニチャー 高質空間形成施設(歩行支援施設) エスカレーター(調査のみ)											
		提案事業	事業活用調査 事後評価調査											
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		基幹事業	なし	—		—								
		提案事業	なし	—		—								
		新たに追加した事業	基幹事業	なし	—		—							
	提案事業		なし	—		—								
	交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
		変更												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	多摩センター駅の乗降客数	人/日	173,131	H27	179,650	R3		109,828	△	あり なし	案内板・サインやストリートファニチャー等の充実もあり、乗降客数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行により、外出が制限されたことから、従前値を下回ったと考えられる。なお新型コロナウイルス((COVID-19)の影響がなければ、平成27年度から令和元年度までの推移より、約0.9%増加しているため、目標値を達成している可能性が高い。	令和4年度中	
	指標2	来訪者アンケート調査(対流空間創設状況の充足度)	%	12.2	H28	24.4	R3		43.2	○	あり なし	ストリートファニチャー等の整備により滞留空間が確保され、駅周辺のベデストリアンデッキの休憩スペースが改善されたことから、来訪者アンケート調査結果に影響したと考えられる。	—	
	指標3	オープンカフェ事業日数	日	13	H27	60	R3	245 (R2)	308	○	あり なし	ストリートファニチャー等の整備による滞留空間の確保や、案内板・サインの設置によりわかりやすい施設誘導が図られ、まちに賑わい環境が整備されたことで、オープンカフェの実施の増加に影響したと考えられる。また、新型コロナウイルス(COVID-19)の流行により、店内が密にならないようにするため、積極的にオープンカフェを実施していることも大きく影響している。	令和4年度中	
	指標4										あり なし			
	指標5										あり なし			
	3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
					基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
		その他の数値指標1												
その他の数値指標2														
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	・多言語化対応した案内板・サインの設置により、目的地を把握しやすくなった。 ・アダプト団体と意見交換することで、ストリートファニチャーの整備に住民の意向が反映され、地域住民に親しみのある滞留空間が創出した。													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	オープンカフェ事業日数把握によるモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	今後もオープンカフェ事業日数の計測を継続的に実施していく。		
	住民参加プロセス	アダプト団体との意見交換				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	今後も市民の意見を聞いて、まちづくりを行っていく。		
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 コンパクトな都市構造への再編を目指す多摩ニュータウンの広域拠点・駅拠点にふさわしい魅力と賑わいあふれる街づくり		多摩センター駅の乗降客数 単位：人／日		173,131人／日 H27		179,650人／日 R3		109,828人／日 R3	
目標1: 多摩センター地区らしい賑わいあふれる空間づくりによる都市機能の誘導 目標2: 住民や来訪者に“やさしい”街の推進（おもてなし、ユニバーサルデザイン） 目標3: まちづくりへの住民、企業等の主体的な参加の推進		来訪者アンケート調査 単位：％		12.2％ H28		24.4％ R3		43.2％ R3	
		オープンカフェ事業日数 単位：日		13日／年 H27		60日／年 R3		308日／年 R3	

凡 例

- 基本事業 (Yellow)
- 提案事業 (Blue)
- 関連事業 (Dashed line)

まちの課題の変化	今後のまちづくりの方策（改善策を含む）
・ハローキティストリートは、ストリートファニチャー等（植栽帯一体化ベンチ）の整備により、滞留空間を創出し、賑わい環境が向上した。 ・オープンカフェの実施により、賑わいが創出され、駅拠点としての魅力が向上した。 ・ストリートファニチャー等の整備による滞留空間の創出や、オープンカフェの実施により、商業空間の賑わいを創出している。 ・多言語化対応している案内板・サインが設置されたことにより、外国人観光客が滞留しやすい環境が図られた。	・多摩センター駅のメインストリートである「バルテノン大通り」にストリートファニチャー（ベンチ等休憩施設）設置による滞留空間の創出や、沿道施設の1階部分のリノベーション等の促進を行い、居心地が良く歩きたくなる、回遊性のあるまちなみ形成を図る。 ・更なる賑わい環境の創出を図るため、バルテノン多摩、多摩中央公園、中央図書館等、駅周辺施設のリニューアル整備を推進し、商業施設との相乗効果を発揮し、人の流れを生み出す。 ・多摩センター駅周辺におけるペDESTリアンデッキ（遊歩道）やバスロータリーの改修検討に併せ、歩行支援施設を整備するなど、誰もが移動しやすい環境の形成を図る。また、駅周辺の施設へのアクセスの際に雨などに濡れず、快適に移動ができるよう、屋根等の整備の必要性を検討するなど移動環境の充実を図る。